

第15回 平成28年度 遺跡調査報告会

2016年11月12日 **土** 午後2:00 ~ 4:00

展示・報告遺跡

- ◆ 一王寺(1)遺跡 (八戸市是川 縄文時代)
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 主査兼学芸員 横山 寛剛
- ◆ 田面木遺跡 (八戸市田面木 古代)
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 主事兼学芸員 苧坪 祐樹
- ◆ 聖寿寺館跡 (南部町小向 中世)
南部町教育委員会 主査 布施 和洋
- ◆ 企画展「馬淵川流域の縄文時代」
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 主事兼学芸員 上ノ山 拓己



八戸市埋蔵文化財センター 〒031-0023 青森県八戸市是川字横山1
是川縄文館 TEL 0178-38-9511 FAX 0178-96-5392
<http://korekawa-jomon.jp>

◆会場：是川縄文館 体験交流室

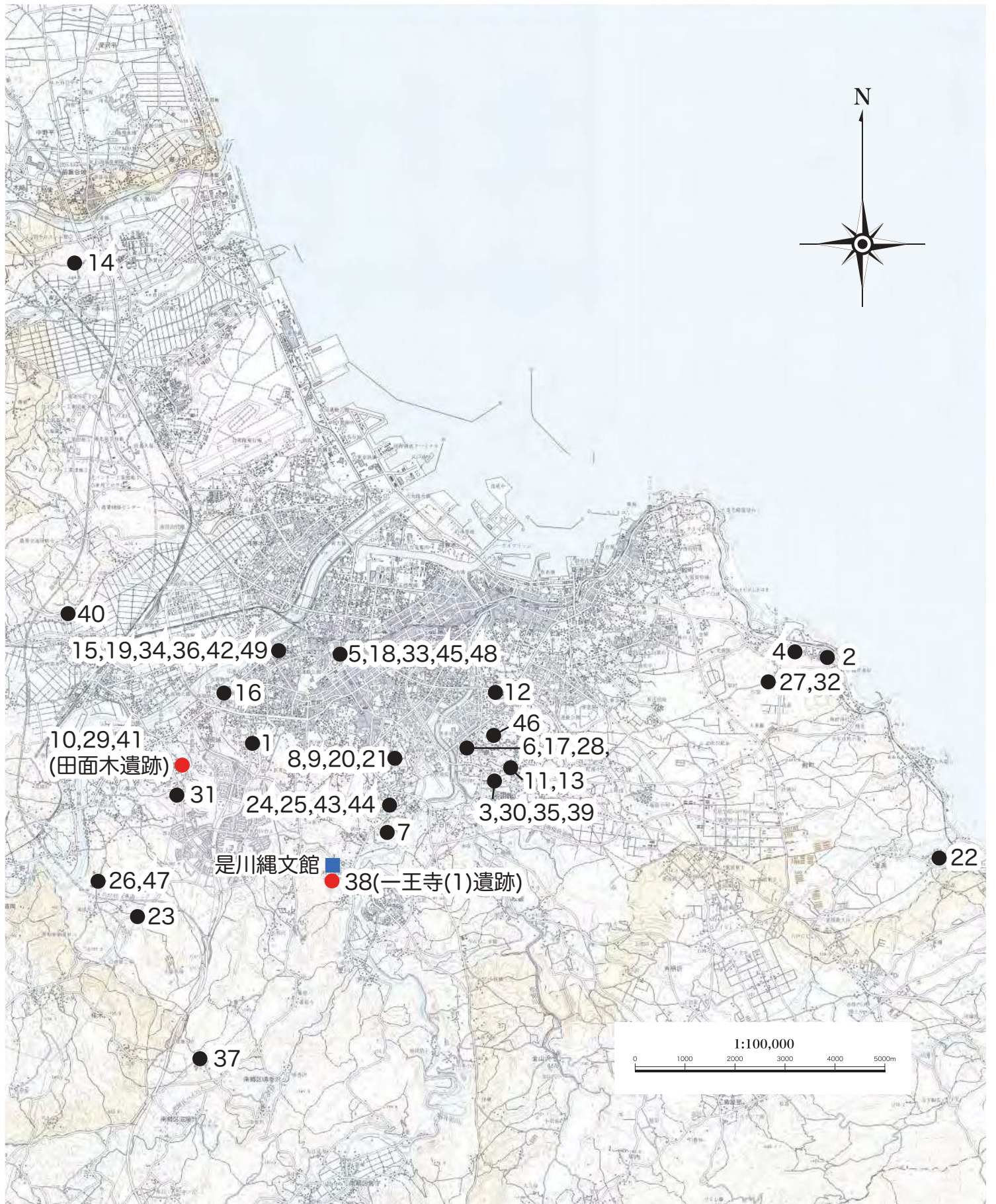
◆主催：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

平成 28 年度発掘調査遺跡一覽

	遺跡名	時代・種類	所在地	調査原因	調査面積	調査期間
試掘調査	1 鹿島沢古墳	奈良・平安 古墳	大字沢里	個人住宅建築	10㎡	4月6日
	2 中道遺跡	縄文 散布地	大字鮫町	太陽光発電設備設置	150㎡	4月7日～14日
	3 市子林遺跡	縄文・古墳～近世 集落跡	大字妙	個人住宅建築	67.5㎡	4月8日～11日
	4 舟渡ノ上遺跡	縄文 散布地	大字上野	太陽光発電設備設置	12㎡	4月13日
	5 八戸城跡	近世 城館跡	内丸三丁目	個人住宅建築	21㎡	4月14日
	6 新井田古館遺跡（隣接地）	縄文・奈良～近世 集落跡・城館跡	大字新井田	範囲確認	28.5㎡	4月18日
	7 石手洗遺跡	縄文 集落跡	大字石手洗	範囲内容確認	30㎡	4月19日
	8 雷遺跡	縄文・平安 散布地	大字中居林	集合住宅建築	193㎡	4月20日～21日
	9 雷遺跡	縄文・平安 散布地	大字中居林	集合住宅建築	240㎡	4月20日～28日
	10 田面木遺跡	縄文・弥生・奈良・平安 集落跡	大字田面木	個人住宅建築	14.8㎡	4月25日
	11 石橋遺跡	平安 集落跡	大字新井田	宅地造成	212㎡	5月16日～19日
	12 塩入遺跡	縄文・平安 散布地	大字新井田	店舗建築	240㎡	5月25日～27日
	13 石橋遺跡	平安 集落跡	大字新井田	個人住宅建築	75㎡	5月30日
	14 稲荷後（3）遺跡	縄文 散布地	大字市川町	個人住宅建築	47.5㎡	6月2日～3日
	15 熊野堂遺跡	縄文・奈良・平安 集落跡	長根二丁目	個人住宅建築	15㎡	6月7日
	16 根城跡	中世 城館	大字根城	個人住宅建築	5㎡	6月15日
	17 新井田古館遺跡（隣接地）	縄文・奈良～近世 集落跡・城館跡	大字新井田	範囲確認	24㎡	6月24日
	18 八戸城跡	近世 城館跡	内丸三丁目	個人住宅建築	24㎡	7月7日
	19 熊野堂遺跡	縄文・奈良・平安 集落跡	長根二丁目	個人住宅建築	43.5㎡	7月8日
	20 雷遺跡	縄文・平安 散布地	大字中居林	集合住宅建築	143.5㎡	7月13日～14日
	21 雷遺跡	縄文・平安 散布地	大字中居林	個人住宅建築	24㎡	7月28日～29日
	22 前川目遺跡	縄文 散布地	大字金浜	個人住宅建築	18㎡	8月1日
	23 法雲屋敷遺跡	縄文 散布地	大字櫛引	太陽光発電設備設置	12㎡	8月2日・3日
	24 駒ヶ沢遺跡	縄文 集落跡	大字石手洗	個人住宅建築	29㎡	8月18日
	25 駒ヶ沢遺跡	縄文 集落跡	大字石手洗	個人住宅建築	32.9㎡	8月18日
	26 櫛引遺跡	縄文 集落跡	大字櫛引	寺院建築	54.6㎡	8月18日・19日
	27 神子沢久保（1）遺跡	縄文 散布地	大字鮫町	風力発電設備設置	18㎡	8月19日
	28 新井田古館遺跡（隣接地）	縄文・奈良～近世 集落跡・城館跡	大字新井田	範囲確認	27㎡	9月1日
	29 田面木遺跡	縄文・弥生・奈良・平安 集落跡	大字田面木	個人住宅建築	18㎡	9月2日～7日
	30 市子林遺跡	縄文・古墳～近世 集落跡	大字妙	個人住宅建築	15㎡	9月14日
	31 酒美平遺跡	縄文・平安 集落跡	大字田面木	個人住宅建築	16㎡	9月15日・16日
	32 神子沢久保（1）遺跡隣接地	縄文 散布地	大字鮫町	範囲確認	9㎡	9月16日
	33 八戸城跡	近世 城館跡	内丸三丁目	個人住宅建築	16㎡	9月20日
	34 熊野堂遺跡	縄文・奈良・平安 集落跡	長根二丁目	個人住宅建築	11㎡	9月21日・23日
	35 市子林遺跡	縄文・古墳～近世 集落跡	大字妙	個人住宅建築	19.5㎡	10月4日
	36 熊野堂遺跡	縄文・奈良・平安 集落跡	長根二丁目	個人住宅建築	20㎡	10月21日
	37 鴨平（3）遺跡	縄文 散布地	大字櫛引	太陽光発電設備設置	44㎡	10月28日
確認調査	38 一王寺（1）遺跡	縄文 集落跡	大字是川	内容確認	60㎡	9月5日～10月31日
本発掘調査	39 市子林遺跡	縄文・古墳～近世 集落跡	大字妙	個人住宅建築	175㎡	5月10日～20日
	40 林ノ前遺跡	縄文・平安 集落跡	大字尻内町	自然崩壊	82㎡	6月6日～6月22日
	41 田面木遺跡	縄文・弥生・奈良・平安 集落跡	大字田面木	長芋・ごぼう作付け	800㎡	7月1日～9月9日
	42 熊野堂遺跡	縄文・奈良・平安 集落跡	長根二丁目	個人住宅建築	140㎡	7月19日～8月22日
	43 駒ヶ沢遺跡	縄文 集落跡	大字石手洗	個人住宅建築	66.75㎡	8月18日
	44 駒ヶ沢遺跡	縄文 集落跡	大字石手洗	個人住宅建築	63㎡	8月18日
	45 八戸城跡	近世 城館跡	内丸二丁目・三丁目	道路改良工事	400㎡	9月20日～10月31日
	46 重地遺跡	縄文 集落跡	大字新井田	集合住宅建築	240㎡	10月6日～11月11日
	47 櫛引遺跡	縄文 集落跡	大字櫛引	寺院建築	230㎡	11月2日～11月30日
	48 八戸城跡	近世 城館跡	内丸二丁目・三丁目	道路舗装工事	400㎡	11月7日～11月30日
	49 熊野堂遺跡	縄文・奈良・平安 集落跡	長根二丁目	個人住宅建築	55㎡	11月14日～12月中

報告遺跡

10月末日現在



平成 28 年度発掘調査遺跡位置図

いちおうじ 一王寺(1)遺跡

1. 遺跡の概要

本遺跡は八戸市の中心部から南へ約4kmに位置し、新井田川の左岸に立地しています。標高70～100mの丘陵と、標高18～44mの新井田川へ向かう緩斜地にかけて広がっています。遺跡の南端には寺ノ沢・北から北東端には長田沢と呼ばれる沢地があります。遺跡の総面積は32万6千㎡です。

縄文時代前期から中期（今から約6,000年～4,000年前）の円筒土器文化期を中心とした大規模な集落であり、昭和32年(1957)に中居遺跡・堀田遺跡とともに「是川石器時代遺跡」として国の史跡に指定されています。八戸市では、平成7年(1995)から22年(2010)まで範囲・内容確認のための発掘調査を行ってきました。その結果、一王寺(1)遺跡と堀田遺跡においてその範囲が確定し、平成25年に両遺跡の重要な範囲の追加指定が決定しました。

平成26年度からは、昭和32年の史跡指定地内の内容確認調査を開始し、85年前の発掘調査記録にある「一王寺貝塚」の場所を特定しました。また、貝塚を確認した不整形の2つの攪乱坑(SX1、SX2)が、過去の調査記録及び図面より、ひとつが昭和4年の大山史前学研究所による発掘調査のB地点、もうひとつが大正15年の長谷部言人・山内清男によるC地点の発掘調査坑である可能性が高いことがわかりました。

2. 検出遺構

今回の調査では縄文時代前期から中期の盛土遺構・貝塚を約1㎡調査し(172トレンチ)、さらにその南側に2箇所のトレンチ(188・189)を設定し、約60㎡を調査しました。トレンチから、縄文時代中期後葉の竪穴住居跡4棟・土坑2基・集石遺構1基、時期不明のピット数基を検出しました。出土土器から、1～3号住居跡は榎林式期、4号住居跡はそれより新しい最花式期のもものとみられます。188トレンチからは2×15mの範囲から3棟もの住居跡がみつき、トレンチ外にさらに複数の住居が広がることが予想されます。

3. 出土遺物

縄文土器、土製品(土偶など)、石器(石鏃・石槍・剥片石器・磨製石斧・半円状扁平打製石器など)、骨角器(骨針・装身具など)動物遺存体(シカ・イルカ、カツオ・スズキ・マグロ・サメ、イガイ・アサリ・アワビなど)、植物遺存体(トチノキ・コナラ種実)など。

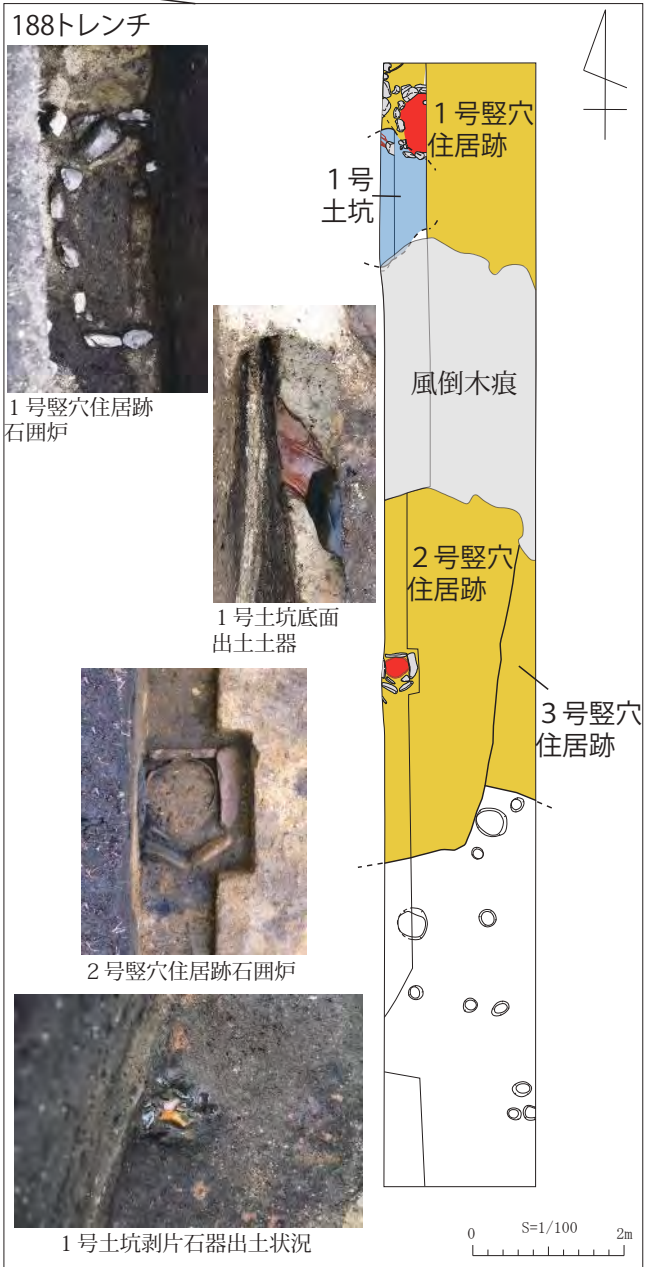
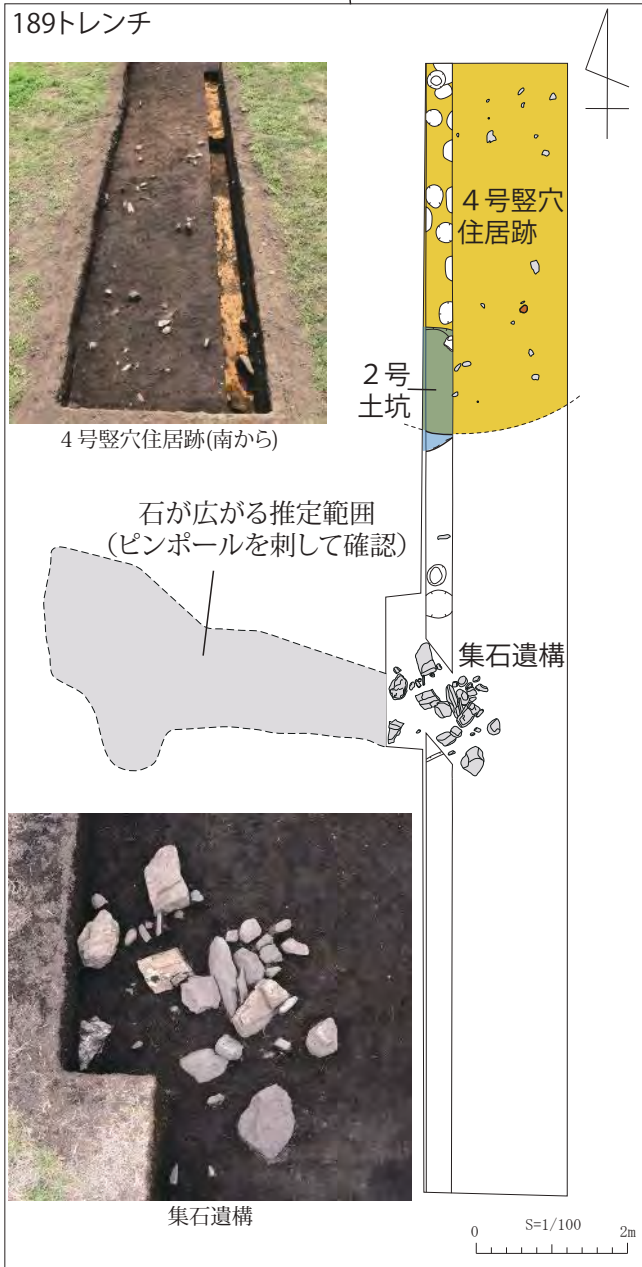
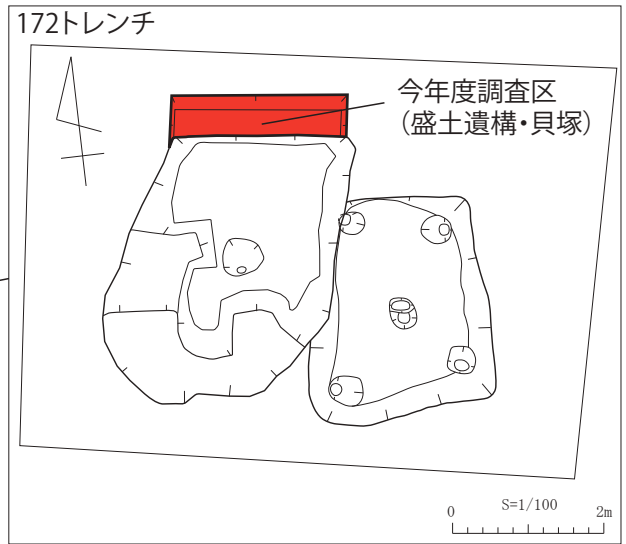
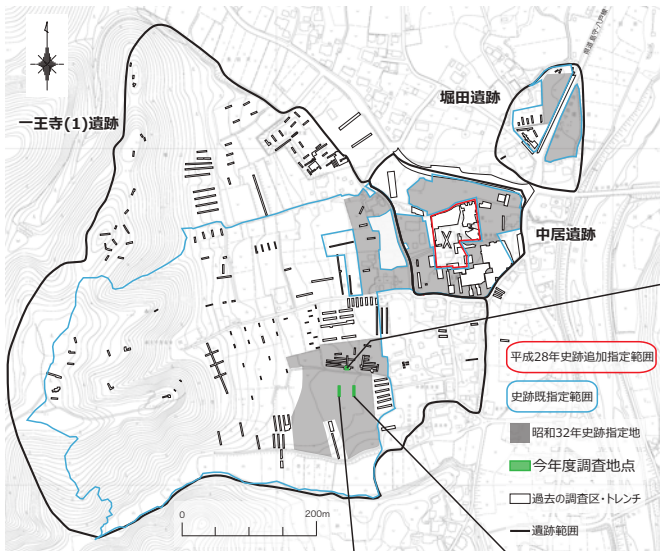
4. まとめ

172トレンチは、縄文時代中期の盛土遺構(今から約4,900～5,100年前)と縄文時代前期の貝層(今から約5,200から5,800年前)に大きく分けられます。今回の調査で、前期の貝層からは縄文土器や石器のほか、シカの骨と一緒に魚の骨(カツオ・マグロ・スズキ・サメなど)、貝がら(イガイ・アサリ・アワビなど)など海の幸がたくさん出土しました。一方、中期の盛土遺構からは土器や石器のほか、シカの骨と一緒に少量の魚の骨が出土していますが、前期の層と比べて量が少なく、貝がらに至っては全く出土していません。縄文時代前期と中期の違いが、当時の生業あるは環境の変化によるものなのか、その理由を今後の整理作業を通じて明らかにしていきます。

また本遺跡の縄文人は、カツオやマグロなど、外洋性の魚を手に入れて食べていたことがわかりました。彼らは舟で新井田川をつたい海へ出て、漁労を行っていたのかもしれない。

188・189トレンチでは中期後葉(今から約4,000～4,500年前)の竪穴住居跡4棟がみつき、昭和32年の史跡指定地に中期後葉の集落が広がることが初めて確認することができました。さらに住居跡の近くに、ほぼ同じ時期の集石遺構もみつき、当時の集落の様子を考えるうえで重要な成果を得られました。

(横山 寛剛)



1. 遺跡の概要

田面木遺跡は、八戸市田面木地区に所在し、馬淵川右岸の標高 25 ～ 50 m の丘陵地に立地しています。馬淵川流域には遺跡が多く存在しますが、田面木遺跡は東西約 400 m、南北約 800 m の広さがあり、その中でも規模が大きい遺跡です。田面木遺跡では、田面木地区の宅地化が急速に進んだ昭和 62(1987) 年以降に、開発に伴う発掘調査を断続的に行っており、今回の調査で 49 か所目となります。これまでの発掘調査からは、主に古代（飛鳥・奈良・平安時代）の集落跡がみつかっています。

2. 調査に至る経緯

今回の発掘調査範囲は、長芋・ごぼう作付けに伴い、田面木遺跡の隣接地として、平成 25 年に試掘調査を行い、多数の遺構・遺物が発見され、田面木遺跡と一連の遺跡となった場所です。調査対象面積は 5,890㎡で、平成 26 年度に 1,100㎡、平成 27 年度は 2,000㎡、今年度は 800㎡を調査しています。

3. 検出された遺構及び出土した遺物

今回の調査では、^{たてあな}堅穴住居跡 10 棟・^{たてあな}堅穴遺構 2 棟（奈良・飛鳥時代 1 棟、平安時代 11 棟）、^{どこう}土坑 5 基、^{みぞ}溝状土坑 2 基がみつかりました。これまで 3 カ年の調査の中でみつかった堅穴住居跡・堅穴遺構は 60 棟を超えており、この集落での遺構の特徴や傾向が少しずつわかってきました。

飛鳥・奈良時代には多くの堅穴住居で四隅に^{ちゆうけつ}柱穴がつくられますが、平安時代は柱穴がみつからないものもあることから、時代を経ることで屋根のつくり方などの堅穴住居の構造が変化したのだと考えられます。また、多く検出した堅穴遺構はカマドを持たないことから、住居ではなく作業場や倉庫として利用されたとみられ、その大部分が平安時代以降のものであるとわかりました。平安時代の人びとが新たな生業のために、堅穴遺構を多くつくったのだと思われます。

今回の調査で出土した遺物は、^{はじき}土師器、^{すえき}須恵器、^{どせいぼうすいしや}土製紡錘車や^{といし}砥石、また^{とうす}刀子や^{てつぞく}鉄鍬といった鉄の製品などがあります。

中でも堅穴住居跡からほぼ一個体になる須恵器壺の破片が出土しましたが、平成 26 年度発掘調査で別の堅穴住居跡から出土した須恵器片と同じ壺の破片であることもわかりました。この 2 つの堅穴住居跡は約 100m 離れていることから、土に埋まる時に偶然に混入したのではなく、そこに居住していた人びとが意図的に残したものとみられます。専用の窯でつくる必要がある須恵器は、当時の八戸ではありふれたものではありませんでした。そのため、堅穴住居内で行われたとみられる祭りや祈りごと、特別なものとしてこの須恵器片が使われたと考えられます。

4. まとめ

これまで 3 カ年の調査から、この調査範囲では飛鳥・奈良・平安時代と集落が営まれた場所であり、中でも平安時代には特に大きな集落であったことがわかりました。この平安時代の堅穴住居跡は、カマドの向きが大きく北方向と南方向の 2 種類あり、また遺物がほとんど出土しないものがある一方で、カマド周辺に大量の土師器等が出土するものがあるなど、それぞれの堅穴住居には違いがあることもわかりました。この違いの要因が、短い時期差や集落内の立場の違いなのか、もしくは集落内がいくつかのグループに分かれていたからなのか、といったことを今後検討していきたいと考えています。

(苧坪 祐樹)

28年度調査区(49地点) 検出遺構

- 竪穴住居跡 1棟(飛鳥・奈良時代)
- 竪穴住居跡 8棟(平安時代)
- 須恵器が接合した竪穴住居跡
(平安時代)
- 竪穴遺構2棟
- 土坑5基
- 溝状土坑2基



28年度調査区
(49地点)

27年度調査区(47地点)

26年度調査区(43地点)

0 10m 20m
S=1/800



カマド周辺から出土する大量の土器
(平安時代)



床面から大量の破片で出土した同一個体の須恵器
(平安時代)

1. 遺跡の概要

聖寿寺館跡は南部町役場南部分庁舎の西北西約 1.1 km に位置し、馬淵川左岸に立地します。標高は平場で約 60 ～ 70 m で、川面との比高は約 20 m ～ 30 m を数えます。城館の西側は鱒沢川の天然の断崖によって守られ、北側と東側は幅 10 ～ 30 m の大規模な堀によって台地から切り離された台地端部に占地した大型の城館です。東側の堀跡は近世段階では奥州街道としても利用されました。聖寿寺館跡南西には小向館があり、南には馬場館跡、東には佐藤館跡と平良ヶ崎城跡が立地しています。

2. 調査に至る経緯

聖寿寺館跡の発掘調査は平成 5 年より開始し、平成 16 年 9 月 30 日には国史跡に指定されました。平成 17 年には『国史跡聖寿寺館跡保存管理計画書』を策定し、平成 26 年には住民がより親しみ、活用できる史跡公園として整備するために『史跡聖寿寺館跡整備基本計画』を策定しています。本調査はこの整備基本計画に基づき、整備を実施する上で必要となる基礎的情報を収集することを目的として実施しました。今年度は 5 月 10 日から 10 月 31 日までの 6 か月間で約 1,600㎡を調査しました。

3. 検出された遺構及び出土した遺物

今年度の調査では、掘立柱建物跡は十数棟、竪穴建物跡 27 棟、溝跡 2 条、土壌を確認しました。中でも大型掘立柱建物跡の建物 B は、L 字型の塀を伴う大規模な建物であることが判明しました。また、虎口 1 の調査では、聖寿寺館跡ではじめて面的な広がりを持つ、非常に硬くしまった硬化面を確認しました。硬化面は通路跡と考えられ、新旧二つの通路があったものと思われます。

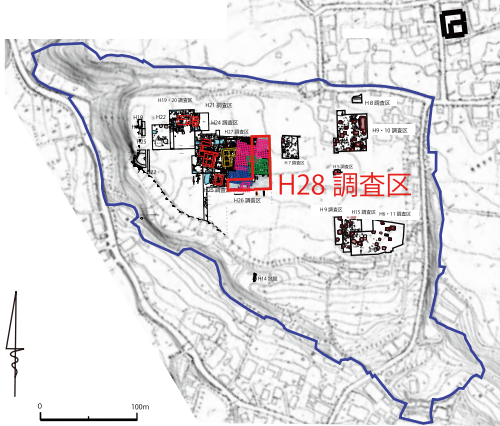
聖寿寺館廃城の状況についても新しい事実が判明しました。中心区画の調査で確認された倉庫や工房と考えられる半地下式の建物群が、最終段階の中心建物と思われる建物 B を壊して作っていることが確認され、天文 8 年（1539）の聖寿寺館跡廃城後にこれらの竪穴建物が築かれた可能性が高くなり、中心建物廃絶後は倉庫や工房の空間となったことが判明しました。

出土遺物としては陶磁器（青磁碗・青磁皿、青磁壺、白磁端反皿、白磁腰折皿、白磁小杯、赤絵皿、染付碗、染付皿、元染盤、染付玉壺春、瀬戸美濃皿、天目茶碗、瓦質土器、中国産褐釉壺）、青銅製装飾品、鉄製品（釘、刀子、小札）、鉄砲玉 1 点、貝、石製品（茶臼、石臼、碁石、砥石）、銭貨、炭化穀物（アワヒエ、小豆、小麦）、炭化種子（梅）が出土しています。

4. まとめ

昨年度の段階で東北最大級の規模となる南北 16 間×東西 11 間以上（約 32 m×22 m）の建物（建物 B）が検出されていましたが、調査区を東側と南側に拡張したところ、この建物がさらに東に 6 間分（12 m）、北に 2 間分（4 m）拡大することが確認されました。建物全体の規模は南北 18 間×東西 17 間（約 36 m×34 m）となり、東北最大となります。しかし、部分的に、調査区東側際まで柱穴列が伸びるため、今後も建物規模が大きくなる可能性があります。建物 B の規模は聖寿寺館跡でこれまで確認された中では最大であり、重複関係も新しいことから、城館の最終段階のものと考えられ、24 代南部晴政の中心建物と考えられます。建物 B の柱穴から出土した炭化材の樹種同定を行ったところ、耐水性の高い高級木材であったヒバ材が使われていることが判明しました。建物の間取りと性格については、今後専門家を交えながら検討していきませんが、福島城跡と同様に複数棟の建物から構成される可能性が高いと考えられます。（布施 和洋）

平成5～28年度調査区配置図

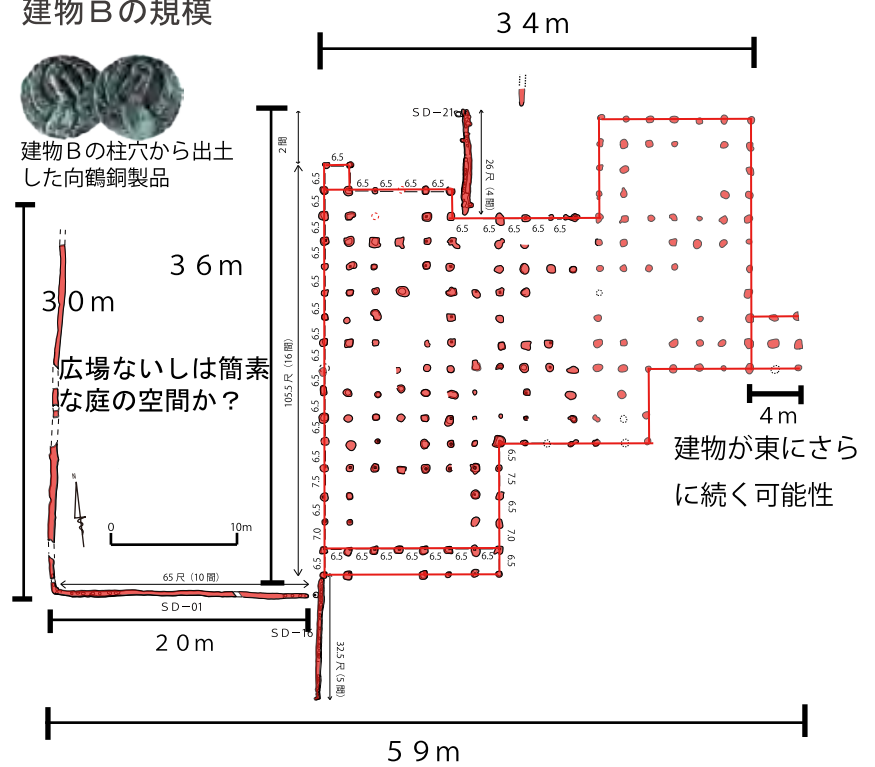


青森県では聖寿寺館跡でしか出土していない元染盤

建物Bの規模

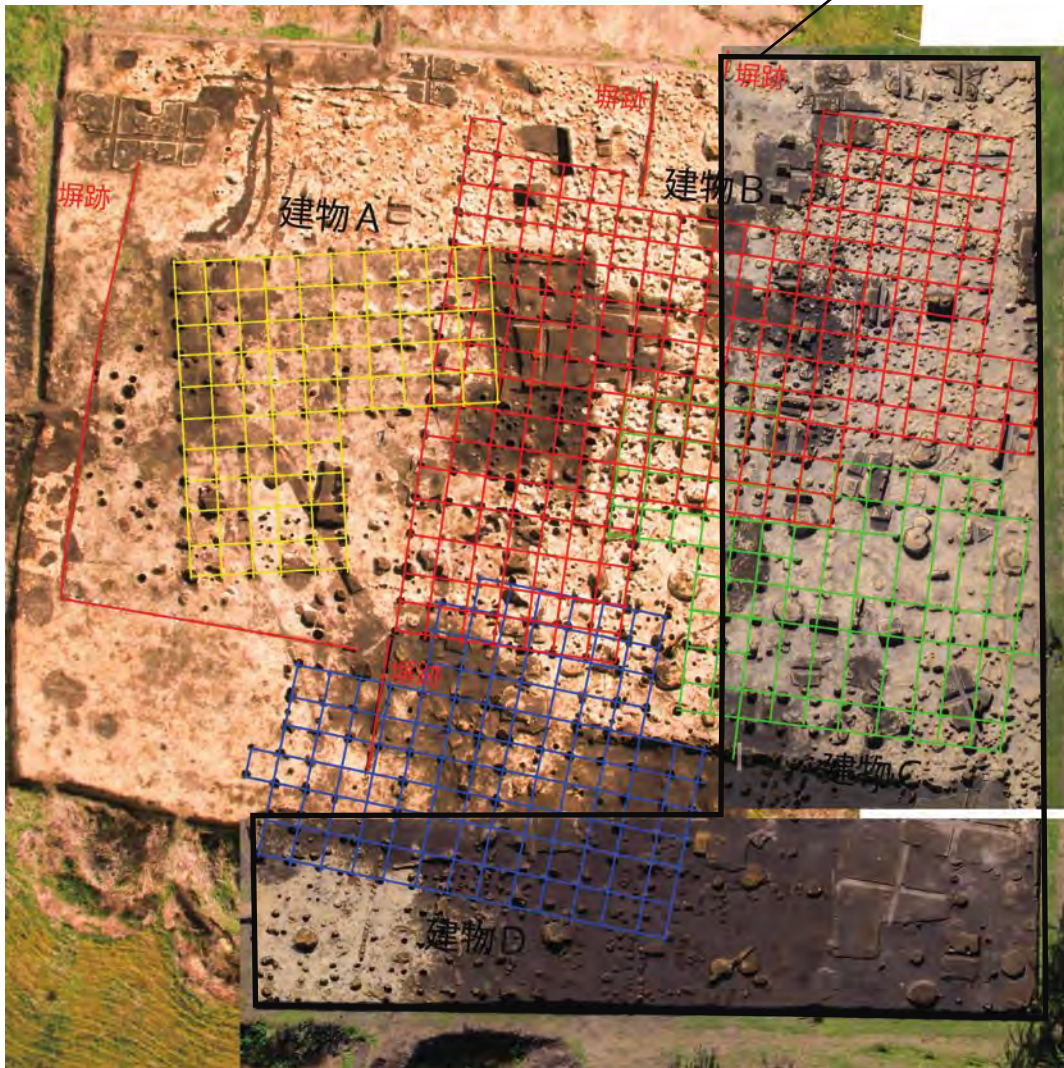


建物Bの柱穴から出土した向鶴銅製品



大型建物（A～Dの配置）

今年度調査区



建物Eに属する大型根石（長軸 60cm）



建物Bに付属すると考えられる堀跡



中心建物廃絶後に作られた竪穴建物跡と大量の炭化材（S I - 1 0 2）



大量の炭化小麦（S I - 1 0 2）

第 15 回 八戸市遺跡調査報告会次第

- 13：00 出土品展示室開場
13：30 報告会受付開始
14：00 開会挨拶
14：05 平成 28 年度調査概要
14：15 調査成果報告 一王寺（1）遺跡
14：35 調査成果報告 田面木遺跡
14：55 10 分休憩
15：05 調査成果報告 聖寿寺館跡
15：25 秋季企画展紹介 馬淵川流域の縄文時代
15：40 質疑応答
16：00 閉会挨拶
閉場（出土品展示室は 16：30 まで）

